



# 学校だより

令和5年6月27日  
市川市立第六中学校  
校長 植木 昭貴

## 【やさしく たくましく】

本校の学校教育目標は「やさしく たくましく 生きる人間に成長しよう」です。この目標は、ここ何年間も本校で継続されている目標であり、本校の生徒や職員に浸透しているものであると思っています。この「やさしく」、「たくましく」について、私の思いを述べさせていただきます。

「やさしい」という言葉は、「周囲や他人に配慮できる」や「つつましい」といった意味を持ち、他者と関わったり集団の中で過ごしたりしていく上で必要な資質です。

やさしさは、自分を含む仲間や集団が快適に、有益につながる事が動機となるべきであると考えます。

「たくましい」は、「存分に満ち満ちている」、「勢いや意志が強く盛んである」、「力強くがっしりしている」などの意味を持ち、まさに学ぶ際の原動力として必要とされる資質です。

「やさしさ」と「たくましさ」は、一見相対するような印象を持ちがちですが、実は関係の深いものであると思っています。やさしさは、自分の心が健康な(たくましい)状態でなければ生まれにくいものであり、また他者を守ったり心を配ったりする心は、強さを持ち合わせているからこそ生まれるものであると思います。

以前読んだことのある書物(題名は忘れてしまいました)に、「強さには鉄のような強さと、水のような強さの2種類がある。」というのがありました、その本の著者は、様々な環境や状況に対し自分のスタイルを主張して反発したり無理に押し通したりしようとする鉄の強さより、どのような環境や状況にも欠けたり折れたりすることなく、無理せず柔軟に形を適応させていく水の強さが本当の強さといえるのではないかと結論付けていました。

私が生徒に身につけてもらいたいのは、こういった優しさや柔軟性を持ち合わせた持続可能な強さと考えています。そして、自分や他者を価値あるものとして理解し、やさしさをもって接することができる集団を作ってほしいと願っています。

私たちを取り巻く環境は目まぐるしく変化しています。今は落ち着きつつあるといわれているコロナ禍も、5年前の時点ではどれだけの人が予想できたでしょうか。本校では、こういった「予測不可能」なこれからの社会で、やさしく、たくましく生きていける生徒を培っていきたいと考えています。



## 【定期試験は終わったけど・・・】

一学期期末試験の答案が28日より(3年生は到達度試験のため29日から)返却されます。生徒の中には、答案返却を終えると既に過去の出来事のように捉えてしまう人もいるかもしれませんが、この時にしっかり振り返ることが必要です。本校では、定期試験の5日前より「諸活動停止期間」としてはいますが、大切なのは直前の取組よりも、授業に集中して取り組めているか、授業の内容がわからないままでないか、記録(ノート等)はわかりやすくまとめているか、その日のうちに復習をしているかなどの日頃取組です。そして、「勉強時間の長さより、自分に合った学習方法を見つけ、効率よく学習が進められているか」ということだと思います(ちなみに私は「書く」と「過去問題や予想問題繰り返し解く」ことをしました)。テスト期間の取組や点数のみをもって判断せず、総合的な視点をもって「PDCAサイクル」を回していくことが大切です。「次回のテストは頑張ろう。」ではなく、「今日の授業から、家庭学習から頑張ろう。」といった視点による振り返りが大切ではないでしょうか。